

◆内科診療室から◆

医療費抑制策のところで

内科 井上均(医師)



代々木病院には3つの病棟があります(3階病棟、4階病棟、5階病棟)。それぞれ内科病棟、療養病棟(医療型)、外科・内科病棟となっています。今回の医療費抑制策で、療養病棟が大変な局面を迎えています。国の医療費抑制の方針のもと、療養病棟を20万床ほど無くしていく計画が立てられています。その誘導策の一つとして、療養病棟へ支払われる診療報酬(※)を変更して、事実上、療養病棟維持が困難な状況を作ろうとしています。

診療報酬に格差をつける人も治療の対象ではないということ、診療報酬が低く抑えられて、多くの病院が敬遠してしまうかもしれない。それによると、これまで療養病棟で受け入れていたリハビリが目的の患者さんを受け入れた場合は、極端に診療報酬が減らされ、一定受け入れる病院はありますが、一般のサラリマンや年金生活者にも、とても払える金額ではありません。

療養病床が減らされる 納得できない診療報酬改定

しかし、療養病棟は、看護体制も低く抑えられていて、治療を積極的に行うには安全上限界があります。さらには、病状が軽くなると診療報酬が低くなるため、安定した患者さんは入院拒否されたり、たくさん「介護難民」が生まれてしまうのではないかと心配されています。たとえば、脳卒中で寝たきり、胃のチューブから栄養をとっている患者さんには、健康保険・国民健康保険などの保険診療で、医療機関に支払われる医療費、診察・検査・治療・手術費に請求する。

療養病棟には看護師の他、介護を専門とする介護福祉士がたくさん配置され、生活リハビリを行い、身体の機能を上させながら自宅に帰ることを支援してきました。



入院患者さんのお花見会 (撮影・小崎征子)

看護師募集

問合せ03(5411)9581

くすりの話 あれこれ16

腸の中で水分や油が過剰になると下痢を起すことがあります。排便の回数が増え、下痢止めを使っても何回あっても普通の便の硬さであれば下痢とはいきません。原因としてまずあげられるのは感染性の下痢です。腸に細菌やウイルスが侵入してきた時に、これを排除するための腸の反応で起こります。次にあげられるのは冷たい飲物を多量に飲んだ時などで、大量の水を吸収しきれない場合です。ホルモンや薬剤、ストレスなどの影響により腸の中に水分が分泌され腸の蠕動運動が亢進したときにも起こります。感染性下痢症は、異物を排泄しようとする防御反応ですからむやみに薬を使うとかえって治療が遅れることがあります。細菌性の下痢では、下痢止めを使用するよりも自然経過を待つことが大切になります。ノロウイルスなどのウイルス性の下痢症に抗生物質は使われません。効果がなければかかりか正常な腸内細菌をやっつけてしまいません。危険なのは、大量の下痢や嘔吐で脱水状態になることです。水分の補給を適切にすることが最も基本であり大切です。

下痢の治療薬

楠本由美子(たくみ外苑薬局・薬剤師)

〈治療薬〉タンニン酸アルブミンは、収れん作用により腸の粘膜に保護膜を作り炎症を和らげます。アドソルピンは、過剰な水分や有害物質を吸着する作用があります。乳酸菌製剤は、腸内細菌の異常状態を改善するのについで、急性腸炎の下痢に効果があるといわれています。リン酸コデインなど麻薬系も腸管運動を抑える作用があり成人での激しい下痢に使用されます。同じく腸の動きを抑えて下痢を止める作用のあるロペラミド(ミロピオン)は、成人の急性下痢に短期間使用する場合には有用なことがあります。小児用もありますが「小児の急性下痢の治療には使用しないこと」という報告も注意が必要です。正露丸は下痢止めとして市販されていますが、主成分のクレオソート(クレゾール)やフェノールなどの混合物は、人の細胞にとって毒(発癌物質)です。下痢が止まるのは、神経を麻痺させて腸の動きを抑える作用にあります。下痢になっても服用しないよう気を付けましょう。下痢のときは、脱水を起こさないようできるだけ水分をとり、体力の消耗を防ぐためにも、食べられるものを食べるようにして安静に過ごすことが大切です。



酒は身近な人との関係を飲みます。大切な人がアルコール依存症になったときにはどうすればいいのでしょうか。

「善意」が病気をつくる

酒の前で平気で酒を飲む。また妻は二日酔いでの遅刻を尻拭いし、子どもを怒鳴った。本当は素晴らしい醜態をこまかし、人々「善意」と思いついて「支えている」と勘違いをしていますが、現実は「善意」が病気を作っています。実はこの関係は労働前回までに記載したように、依存症は形成されません。夫婦がその典型です。「苦労しているから」「本当は素晴らしい醜態をこまかし、人々」と思いついて「支えている」と勘違いをしていますが、現実は「善意」が病気を作っています。重要なことは、「と」もかく精神科に行こう」と言わないこと。依存症は形成されません。夫婦がその典型です。「苦労しているから」「本当は素晴らしい醜態をこまかし、人々」と思いついて「支えている」と勘違いをしていますが、現実は「善意」が病気を作っています。重要なことは、「と」もかく精神科に行こう」と言わないこと。

かのか才覚を持つ「よい人」が陥る病状です。社では飲まずに仕事を何年かかけて病気が出来上がる過程では、その時間を「呑む為の時間」であり、昼間働いていることすら「呑む」のです。身近な人に酒害や高血圧があるのに、健康を願っているのでもらい続けることで「善意」が病気をつくる。このような事態を「だらしない」とか「意志が弱い」とか「度が過ぎた」と見るのでも、母との関係でも、内科の主治医と患者との間でもおきてきます。このような事態を「だらしない」とか「意志が弱い」とか「度が過ぎた」と見るのでも、母との関係でも、内科の主治医と患者との間でもおきてきます。このような事態を「だらしない」とか「意志が弱い」とか「度が過ぎた」と見るのでも、母との関係でも、内科の主治医と患者との間でもおきてきます。